

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨、頭蓋骨の観血的移動術	有・無	
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	
・溶血性貧血症の病因解析ならびに遺伝子解析診断法	有・無	
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法	有・無	
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	
・人工中耳	有・無	
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・無	
・性腺機能不全の早期診断法	有・無	
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・無	
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・無	
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・無	
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・無	
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・無	
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	
・筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	有・無	
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・無	
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	
・栄養障害型表皮水泡症のDNA診断	有・無	
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・無	
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・無	
・抗がん剤感受性試験	有・無	
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・無	
・腹腔鏡下肝切除術	有・無	
・画像支援ナビゲーション手術	有・無	
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・無	
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	
・成長障害のDNA診断	有・無	
・生体部分肺移植術	有・無	
・門脈圧充進症に対する経頸静脈的肝内開脈大循環短絡術	有・無	
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有・無	
・神経変性疾患のDNA診断	有・無	11人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・無	
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	2人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・無	
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・カフェイン併用化学療法	有・無	
・ ³¹ P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲診断	有・無	
・特発性男性不妊症・性腺機能不全症の遺伝子診断	有・無	
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	
・遺伝性コプロポルフィリン症のDNA診断	有・無	0人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・無	
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・無	
・膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術	有・無	
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・無	
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・無	
・Q熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断	有・無	
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	
・活性化Tリンパ球移入療法	有・無	
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・無	
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	
・中枢神経白質形成以上症の遺伝子診断	有・無	
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	
・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・無	
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・無	
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	
・活性化血小板の検出	有・無	
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る)による血管再生治療	有・無	
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・無	
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・無	
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	

高度先進医療の種類（歯科）	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・無	
・顎顔面補綴	有・無	
・顎関節症の補綴学的治療	有・無	
・歯周組織再生誘導法	有・無	
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・無	
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・無	
・レーザー応用によるう食除去・スケーリングの無痛療法	有・無	
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・無	
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・無	
・耳鼻咽喉領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・無	

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮腺症核出術	有・無	
・自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・無	
・画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・無	
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	
・強度変調放射線治療	有・無	
・胎児心超音波検査	有・無	
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・無	
・インプラント義歯	有・無	
・顎顔面補綴	有・無	
・人工中耳	有・無	
・歯周組織再生誘導法	有・無	
・抗がん剤感受性試験	有・無	
・腹腔鏡下肝切除術	有・無	
・生体部分肺移植術	有・無	
・活性化血小板の検出	有・無	
・末梢血管細胞による血管再生治療	有・無	
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・無	
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	
・超音波骨折治療法	有・無	
・眼底三次元画像解析	有・無	
・CYP2C19 遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・無	
・非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・無	
・X線 CT 診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	
・定量的 CT を用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。
2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。
3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ベーチェット病	46 人	・(モヤモヤ病)ウィリス動脈輪閉塞症	23 人
・多発性硬化症	28 人	・ウェゲナー肉芽腫症	4 人
・重症筋無力症	37 人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	47 人
・全身性エリテマトーデス	87 人	・多系統萎縮症	22 人
・スモン	4 人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4 人
・再生不良性貧血	18 人	・膿疱性乾癬	5 人
・サルコイドーシス	31 人	・広範脊柱管狭窄症	4 人
・筋萎縮性側索硬化症	38 人	・原発性胆汁性肝硬変	34 人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	51 人	・重症急性膵炎	3 人
・特発性血小板減少性紫斑病	22 人	・特発性大腿骨頭壊死症	10 人
・結節性動脈周囲炎	14 人	・混合性結合組織病	24 人
・潰瘍性大腸炎	124 人	・原発性免疫不全症候群	4 人
・大動脈炎症候群	10 人	・特発性間質性肺炎	4 人
・ビュルガー病	13 人	・網膜色素変性症	34 人
・天疱瘡	10 人	・プリオン病	0 人
・脊髄小脳変性症	40 人	・原発性肺高血圧症	2 人
・クローン病	40 人	・神経繊維腫症	10 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	5 人	・亜急性硬化性全脳炎	0 人
・悪性関節リウマチ	7 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1 人
・パーキンソン病関連疾患	85 人	・特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)	0 人
・アミロイドーシス	3 人	・ライゾーム病(ファブリー[Fabry]病)を含む	0 人
・後縦靭帯骨化症	18 人	・副腎白質ジストロフィー	2 人
・ハンチントン病	4 人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	23回/年	
剖 検 の 状 況	剖検症例数 34 例	剖検率 11.4 %

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
免疫・炎症と心不全の進展:HMGB1の役割	久保田 功	第一内科	1,900	補 委 文部科学省科学研究費
心筋細胞内脂質代謝とシグナル伝達制御による心臓リモデリング抑制	竹石 恭知	第一内科	1,500	補 委 文部科学省科学研究費
虚血性心疾患における心電図同期SPECT (QGS)検査に関する国内臨床データベース作成のための調査研究	竹石 恭知	第一内科	210	補 委 (財)循環器病研究振興財団
P T X 3の心筋細胞における機能解析	竹石 恭知	第一内科	1,000	補 委 (株)ペルセウスプロテオミクス
感染によるToll like receptorを介した慢性心不全の進展について	野崎直樹	第一内科	1,500	補 委 文部科学省科学研究費
喫煙COPDの肺泡マクロファージにおける転写因子MafBの役割の研究	柴田 陽光	第一内科	2,000	補 委 文部科学省科学研究費
慢性閉塞性肺疾患及び特発性肺線維症における肺毛細血管内皮細胞機能障害の意義	高畠 典明	第一内科	1,500	補 委 文部科学省科学研究費
造影超音波法による周期性輝度変動量を用いた左心耳機能評価法の確立	廣野 摂	第一内科	1,200	補 委 文部科学省科学研究費
心房内皮抗凝固機能とToll like receptorの役割	橋 英忠	第一内科	1,500	補 委 文部科学省科学研究費
動脈硬化治療の新しい標的:マクロファージ転写因子MafB	渡邊 哲	第一内科	2,500	補 委 文部科学省科学研究費
転写因子PU.1による肺泡マクロファージへの分化調節機構の解明	阿部 修一	第一内科	2,100	補 委 文部科学省科学研究費
B型及びC型肝炎ウイルスの新たな感染予防法の確立のための感染病態解明に関する研究	河田 純男	第二内科	35,000	補 委 厚生労働省科学研究費
重症肝不全克服のための肝幹細胞を用いた再生医療の開発	河田 純男	第二内科	7,100	補 委 文部科学省科学研究費
オルメサルタンによるNASH治療効果及び大腸がん予防効果とその標的遺伝子の検索	河田 純男	第二内科	18,000	補 委 三共株式会社第一生物研究所
山形県における疾病の特性に関する総合的な研究②山形県におけるメタボリックシンドロームからの大腸がん発症リスクとメカニズムに関する研究	河田 純男	第二内科	500	補 委 山形県
C型肝炎ウイルス感染成立におけるヒト接合蛋白遺伝子(AP1B1)の機能解析	齋藤 貴史	第二内科	1,500	補 委 文部科学省科学研究費
糖尿病に関連性を示したTNF α 遺伝子IVS1+123G/A多型の機能解析	諏佐 真治	第三内科	1,800	補 委 文部科学省科学研究費
海馬のマルチショット拡散強調画像を用いた高齢者うつ病と軽度認知障害の比較	林 博史	精神神経	400	補 委 文部科学省科学研究費
治療抵抗性うつ病における、オランザピンまたはリチウム併用療法の治療効果の検討	鈴木 昭仁	精神神経	2,600	補 委 文部科学省科学研究費
遺伝性ニューロパチーの病態解明	早坂 清	小児科	1,800	補 委 文部科学省科学研究費
Charcot-Marie-Tooth病の病態解明	早坂 清	小児科	750	補 委 国立精神神経センター

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
基礎疾患研究-脳形成障害の病態解明	加藤 光広	小児科	1,000	補 委 国立精神神経センター
ARX遺伝子変異に起因する精神遅滞の分子遺伝学的研究	加藤 光広	小児科	1,200	補 委 国立精神神経センター
先天性好中球減少症におけるG-CSF受容体遺伝子異常の臨床的・生物学的意義	三井 哲夫	小児科	2,000	補 委 文部科学省科学研究費
先天性中枢性肺胞低換気症候群の病態解明	佐々木 綾子	小児科	1,800	補 委 文部科学省科学研究費
ミトコンドリアネットワーク形成障害の病態について	沼倉 周彦	小児科	1,800	補 委 文部科学省科学研究費
日本人における新生児高ビリルビン血症病態の解明	金井 雅代	小児科	1,800	補 委 文部科学省科学研究費
高次脳機能を温存する転移性脳腫瘍の治療法確立に関する研究	嘉山 孝正	脳神経外科	20,000	補 委 厚生労働省科学研究費
日本の脳神経外科医適正配置に向けての企画調査	嘉山 孝正	脳神経外科	3,400	補 委 文部科学省科学研究費
神経膠種の薬剤耐性機構: Akt-mTOR経路の関与に関する基礎的研究	櫻田 香	脳神経外科	1,400	補 委 文部科学省科学研究費
慢性脳虚血におけるオリゴデンドロサイトの動態、大脳白質病変発症抑制に関する研究	小久保 安昭	脳神経外科	1,700	補 委 文部科学省科学研究費
Hsp70の神経保護作用-Bax translocationの抑制-	土谷 大輔	脳神経外科	1,800	補 委 文部科学省科学研究費
加齢による慢性酸化ストレスに伴う稀突起膠細胞の動態及び大脳白質病変発症機序の解明	竹村 直	脳神経外科	1,500	補 委 文部科学省科学研究費
発育期の脳における低酸素虚血後のアポトーシスと神経幹細胞の動態に関する研究	松森 保彦	脳神経外科	1,500	補 委 文部科学省科学研究費
眼皮膚白皮症を呈する疾患の病態および病因遺伝子産物の機能解析	鈴木 民夫	皮膚科	7,800	補 委 文部科学省科学研究費
アールエヌエー編集障害により発症する遺伝性対側性色素異常症の病態解析	鈴木 民夫	皮膚科	1,600	補 委 文部科学省科学研究費
組織特異的遺伝子改変マウスを用いた皮膚におけるTNF- α 変換酵素の機能解析	川口 雅一	皮膚科	1,100	補 委 文部科学省科学研究費
siRNAを用いたアポトーシス関連分子機能制御による泌尿器悪性腫瘍の治療法の改良	富田 善彦	泌尿器科	1,300	補 委 文部科学省科学研究費
自然免疫システム (TOLL-LR) は泌尿器科癌の分子標的治療の対象となるか?	富田 善彦	泌尿器科	2,700	補 委 文部科学省科学研究費
泌尿器科癌におけるGSK3ベータ抑制による分子標的治療の可能性の検討	ヒラーム ウラジミ	泌尿器科	2,700	補 委 文部科学省科学研究費
網膜神経細胞障害としてみた糖尿病網膜症における分子病態と治療法開発戦略	山下 英俊	眼科	1,700	補 委 文部科学省科学研究費
硝子体リモデリング制御による眼内血管新生の抑制	高橋 義徳	眼科	1,700	補 委 文部科学省科学研究費
ヒト強膜細胞由来細胞株を用いた強膜リモデリングの検討	上領 勝	眼科	1,800	補 委 文部科学省科学研究費
頭頸部扁平上皮癌根治治療後のTS-1補助化学療法法の検討	小池 修治	耳鼻咽喉科	105	補 委 (財) 先端医療振興財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
頭頸部癌における5-FU感受性因子の新しい定量法の開発とその有用性に関する検討	伊藤 吏	耳鼻咽喉科	700	補 委 文部科学省科学研究費
虚血性脳血管障害における動脈解離の画像診断	細矢 貴亮	放射線科	2,000	補 委 国立循環器病センター
食道癌の化学放射線療法に対する反応予測法の開発	根本 建二	放射線科	500	補 委 文部科学省科学研究費
上皮成長因子(EGF)受容体シグナル伝達経路を分子標的とする卵巣癌化学療法の開発	倉智 博久	産科婦人科	5,300	補 委 文部科学省科学研究費
不妊症患者の実態と妊孕性の向上に関する研究～当科における精子凍結保存に関する検討～	倉智 博久	産科婦人科	765	補 委 山形県
分子生理学的手法を用いた子宮平滑筋の収縮制御に関与するイオンチャネル特性の解明	手塚 尚広	産科婦人科	1,300	補 委 文部科学省科学研究費
神経回路形成に関わる神経突起の伸長における性ステロイドホルモン作用の解析	高橋 一広	産科婦人科	1,800	補 委 文部科学省科学研究費
Aktカスケードを介した黄体ホルモンによる乳癌細胞増殖作用とその機序の解析	阿部 亜紀子	産科婦人科	2,300	補 委 文部科学省科学研究費
メチル化診断チップによる肺癌の分子診断法の確率と発癌リスク評価	遠藤 誠	第二外科	1,700	補 委 文部科学省科学研究費
糖尿病ラットバルーン傷害におけるp38活性阻害による内膜肥厚と糖代謝への効果	富永 真琴	検査部	500	補 委 文部科学省科学研究費
塩酸セフェピム感受性試験(Etest法による)	富永 真琴	検査部	390	補 委 フリストル・マイヤーズ株式会社
凝固第XIII因子測定試薬ヘキサメイトFXIII試薬の基礎的検討	富永 真琴	検査部	260	補 委 株式会社医学生物学研究所
人工股関節素材磨耗粉に対するDGK依存症骨髄マクロファージ反応機構の解析	高木 理彰	リハビリテーション部	1,300	補 委 文部科学省科学研究費
エナメル基質由来物質の効果の限界と歯牙移植再植における適切な使用方法に関する研究	濱本宜興	歯科口腔外科	500	補 委 文部科学省科学研究費

小計 14

計 58

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Cardiac Failure.2007 Mar,Vol 13,No 2:120-7.	Heart-type fatty acid-binding protein is more sensitive than troponin T to detect the ongoing myocardial damage in chronic heart failure patients.	Niizeki T	第一内科
Clinical and Experimental Nephrology. 2007 Mar,Vol 11,No 1:51-5.	Clinical utility of trace proteinuria for microalbuminuria screening in the general population.	Konta T	第一内科
Journal of Cardiac Failure.2007 Feb,Vol 13,No 1 :34-41.	Cardiac sympathetic denervation and ongoing myocardial damage for prognosis in early stages of heart failure.	Arimoto T	第一内科
Respirology. 2007 Mar; Vol 12,No2:191-201.	Increased surfactant protein-D and foamy macrophages in smoking-induced mouse emphysema.	Hirama N	第一内科
Circulation Journal. 2007 Feb,Vol 71,No 2 :276-82.	Diacylglycerol kinase ζ attenuates pressure overload-induced cardiac hypertrophy.	Harada M	第一内科
Respirology. 2007 Jan, Vol 12,No1:34-41.	Intronic single-nucleotide polymorphisms in Bcl-2 are associated with chronic obstructive pulmonary disease severity.	Sata M	第一内科
Chemotherapy. 2007 Feb,Vol 53,No 2:77-84.	Clarithromycin suppresses invasiveness of human lung adenocarcinoma cells.	Wada T	第一内科
American Journal of Physiology: Heart Circ Physiology. 2007 Feb,Vol 292,No 2:H1105-12.	Cardiac-specific overexpression of diacylglycerol kinase ζ attenuates left ventricular remodeling and improves survival after myocardial infarction.	Niizeki T	第一内科
Journal of Cardiology. 2006 Aug,Vol 48,No 2:75-84.	Ratio of peak early to late diastolic filling velocity of the left ventricular inflow is associated with left atrial appendage thrombus formation in elderly patients with acute ischemic stroke and sinus rhythm.	Ling L	第一内科
Circulation Journal. 2006 Aug,Vol 70,No 8 :971-6.	Higher levels of serum fibrin-monomer reflect hypercoagulable state and thrombus formation in the left atrial appendage in patients with acute ischemic stroke.	Okuyama H	第一内科
American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine. 2006 Oct 15,Vol174,No 8:875-85.	A single nucleotide polymorphism in the CCL1 gene predicts acute exacerbations in chronic obstructive pulmonary disease.	Takabatake N	第一内科

小計：11

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Kidney International. 2006 Aug, Vol 70, No 4:751-6.	Prevalence and risk factor analysis of microalbuminuria in Japanese general population. the Takahata study.	Konta T	第一内科
Journal of Cardiology. 2006 May, Vol 47, No 5:219-28	Hyperuricemia associated with high cardiac event rates in the elderly with chronic heart failure.	Niizeki T	第一内科
Digestive Diseases and Sciences. 2006 May;51(5):934-41.	Complement activation is involved in biological responses to leukocyte adsorptive apheresis.	Nishise S	第二内科
Hepatology research 2006 Oct;36(2):130-8.	Separate analysis of asialoglycoprotein receptors in the right and left hepatic lobes using (99m)Tc-GSA SPECT in patients with acute hepatic damage.	Togashi H	第二内科
Journal of Gastroenterology. 2006 Jan;41(1):62-9.	Characteristics of rat bone marrow cells differentiated into a liver cell lineage and dynamics of the transplanted cells in the injured liver.	Okumoto K	第二内科
Gut. 2006 Oct;55(10):1526-7.	Impaired portal circulation resulting from L-arginine deficiency in patients with lysinuric protein intolerance.	Takeda T	第二内科
The Journal of Neuroscience. 2006 Sep 6;26(36):9227-38.	The role of G-protein-coupled receptor kinase 5 in pathogenesis of sporadic Parkinson's disease.	Arawaka S	第三内科
Biochemical and biophysical research communications. 2006 May 12;343(3):719-30.	Alteration of familial ALS-linked mutant SOD1 solubility with disease progression: Its modulation by the proteasome and Hsp70.	Koyama S	第三内科
Diabetes Care. 2006 May;29(5):1117-9.	Association of nephrin gene polymorphisms with type 2 diabetes in a Japanese population: The Funagata study.	Daimon M	第三内科
Metabolism. 2006 Mar;55(3):324-30.	Correlation between change in body weight rather than current body weight and change in serum adiponectin levels in a Japanese population - the Funagata study.	Arawaka N	第三内科
Internal Medicine. 2006;45(12):779-81.	Vogt-Koyanagi-Harada's disease presenting polymorphonuclear pleocytosis in the cerebrospinal fluid at the early active stage.	Kato Y	第三内科
Circulation Journal. 2006 Dec;70(12):1663.	A proposal for the cutoff point of waist circumference for the diagnosis of metabolic syndrome in the Japanese population.	Oizumi T	第三内科

小計：12

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ホルモンと臨床 (0045-7167)54巻4号 Page365-369(2006.04)	ACE阻害薬服用中に低カルシウム血症 と皮下組織の石灰沈着をみた2型糖尿病 の1例	大沼 寛	第三内科
臨床神経学(0009-918X)46 巻5号 Page322- 327(2006.05)	アデノウイルス2型感染が関与した非ヘ ルペス性急性性辺縁系脳炎の1例	永沢 光	第三内科
Geriatric Medicine (0387-1088)44巻3号 Page349-352(2006.03)	【高齢者糖尿病 現状,治療,そして展 望】 合併症のある例の高齢者糖尿病の 管理 脳血管障害を合併した例	大門 真	第三内科
日本内科学会雑誌 2006;95(7):1328-11349	原因不明の脳炎・脳症	加藤 丈夫	第三内科
日本内科学会雑誌(0021- 5384)95巻7号 Page1323- 1327(2006.07)	【脳炎・脳症 診断と治療の進歩】 最近の話題 スギヒラタケの関与が疑わ れている原因不明の脳症 脳画像と神経病理の立場から	川並 透	第三内科
難病と在宅ケア(1880- 9200)12巻4号 Page39- 42(2006.07)	脊髄小脳変性症のすべて SCD諸病型の治療の具体的事例 SCA1とSCA3(マシヤド・ジョセフ病)	川並 透	第三内科
Clinical Neuroscience (0289-0585)24巻1号 Page102-104(2006.01)	【内科疾患と神経障害】 その他の内科疾患に関連した神経障害 血液疾患	川並 透	第三内科
Pediatric Blood & Cancer. 2006 32:861.	Relapsed or Primary Refractory Childhood B-cell non-Hodgkin lymphoma and mature B-cell leukemia : A retrospective analysis of registered cases in Japan.	Fujita N	小児科
Epilepsia. 2006 Jun;47(6):991-7.	Magnetoencephalography in patients with tuberous sclerosis and localization-related epilepsy.	Kamimura T	小児科
Pediatric nephrology (Berlin, Germany). 2006 Feb;21(2):190-3.	A compound heterozygous mutation in the BSND gene detected in Bartter syndrome type IV.	Kitanaka S	小児科
Journal of human genetics. 2006;51(4):379-82.	A novel compound heterozygous mutation in the thyroglobulin gene resulting in congenital goitrous hypothyroidism with high serum triiodothyronine levels.	Kitanaka S	小児科
The Journal of clinical endocrinology and metabolism. 2006 Aug;91(8):3100-4.	Haplotype analysis reveals founder effects of thyroglobulin gene mutations C1058R and C1977S in Japan.	Hishinuma A	小児科

小計: 12

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatric Blood & Cancer. 2006 46:866.	Relapsed or primary refractory childhood lymphoblastic lymphoma : A retrospective analysis of registered cases in Japan.	Mitsui T	小児科
American journal of medical genetics. Part A 2006 Feb 1;140(3):291-3.	No detectable genomic aberrations by BAC array CGH in Kabuki make-up syndrome patients.	Miyake N	小児科
American journal of medical genetics. Part A 2006 Feb 1;140(3):205-11.	BAC array CGH reveals genomic aberrations in idiopathic mental retardation.	Miyake N	小児科
Journal of human genetics. 2006;51(7):625-8.	Periaxin mutation in Japanese patients with Charcot-Marie-Tooth disease.	Otagiri T	小児科
Journal of neurophysiology. 2006 Sep;96(3):1347-57.	Ankyrin-G regulates inactivation gating of the neuronal sodium channel, Nav1.6.	Shirahata E	小児科
Journal of the neurological sciences. 2006 Dec 1;250(1-2):159-61.	Acute encephalopathy with refractory status epilepticus: bilateral mesial temporal and claustral lesions, associated with a peripheral marker of oxidative DNA damage.	Shiihara T	小児科
Neurology. 2006 May 9;66(9):1304-9; discussion 1291.	Diffusion MRI abnormalities after prolonged febrile seizures with encephalopathy.	Takanashi J	小児科
Natural Medicine. 2006 Apr;12(4):395-7.	Human sebaceous tumors harbor inactivating mutations in LEF1.	Takeda H	皮膚科
Journal of Dermatological Science. 2006 Nov;44(2):116-8.	Two novel mutations detected in Japanese patients with oculocutaneous albinism.	Suzuki T	皮膚科
Pigment Cell Reserch. 2006 Oct;19(5):451-3.	Oculocutaneous albinism type 4: six novel mutations in the membrane-associated transporter protein gene and their phenotypes.	Suzuki T	皮膚科
The Journal of Dermatology. 2006 May;33(5):383-5.	Successful treatment of warts with a combination of maxacalcitol ointment and salicylic acid sticking plaster.	Suzuki T	皮膚科
Journal of Neurosurgery. 2007 Apr;106(4):575-81.	Prognostic significance of surgery and radiation therapy in cases of anaplastic astrocytoma: retrospective analysis of 170 cases.	野宮 琢磨	がん臨床センター

小計: 12